

健康メモ

口腔アレルギー症候群

広島市医師会理事
木下皮膚科医院院長 木下 三枝子

息子の話をし

ます。小学校五年生のある日、食事をしている



急に口の中がかしいと言い出したのです。「腫れて痒くなった！」それまでアトピーの症状もなく健康でしたから、親のほうに驚きました。すぐに抗ヒスタミン剤を飲ませてよくなりましたが、以来、ときどきこういうことが起こるようになりました。イカのお刺身で。エビフライで。鮑やアサリのバター焼きで。ホタテのスープでも「あ、

又なった！」甲殻類を摂取すると決まって口腔から咽頭にかけての痒みを生じます。最初は疲れからだと思っていました。成長しても改善せず、一〇年たった今も食べさせるわけにはいきません。

こういった症状を「口腔アレルギー症候群」といい「食物アレルギー」といわれるものの特殊な形です。原因となる食物を摂取すると、その接触により口腔や咽頭に蕁麻疹が起きるのですが、まれには腹痛、下痢などの全身症状も伴います。多くは学童期から成人になって初めて出ることが多く、原因食物としてはリンゴ、桃、メロンといった果物や野菜が主で、魚介類や穀物の場合もあります。幼少時よりアレルギー性鼻炎のあった娘も、成人してつい最近、やはり甲殻類がダメになり苦労しているようです。

花粉症のある人は野菜や果物の中

にその抗原と同じ蛋白があると、交差してこれにも反応するため、シラカバの花粉が陽性ですと、リンゴ、サクランボ、桃、スギやヒノキはトマト、ブタクサはメロン、スイカなどを食べると同じようにアレルギーが起こってしまいます。又、ラテックスアレルギーの人はバナナやアボガド、キウイなどにより症状が出ます。花粉症のある方で、もしも食事中に口の中に違和感、痒み、しびれなどを感じたら、すぐに吐き出す、うがいをするといいことと早めの治療を受けてください。加工食品のアレルギー食品表示も、摂取の際には必ず確認されるようお願いいたします。

「原因となる食物を食べない」が基本ですが、周囲にも情報を伝えておき、適切な処置ができるよう留意してください。